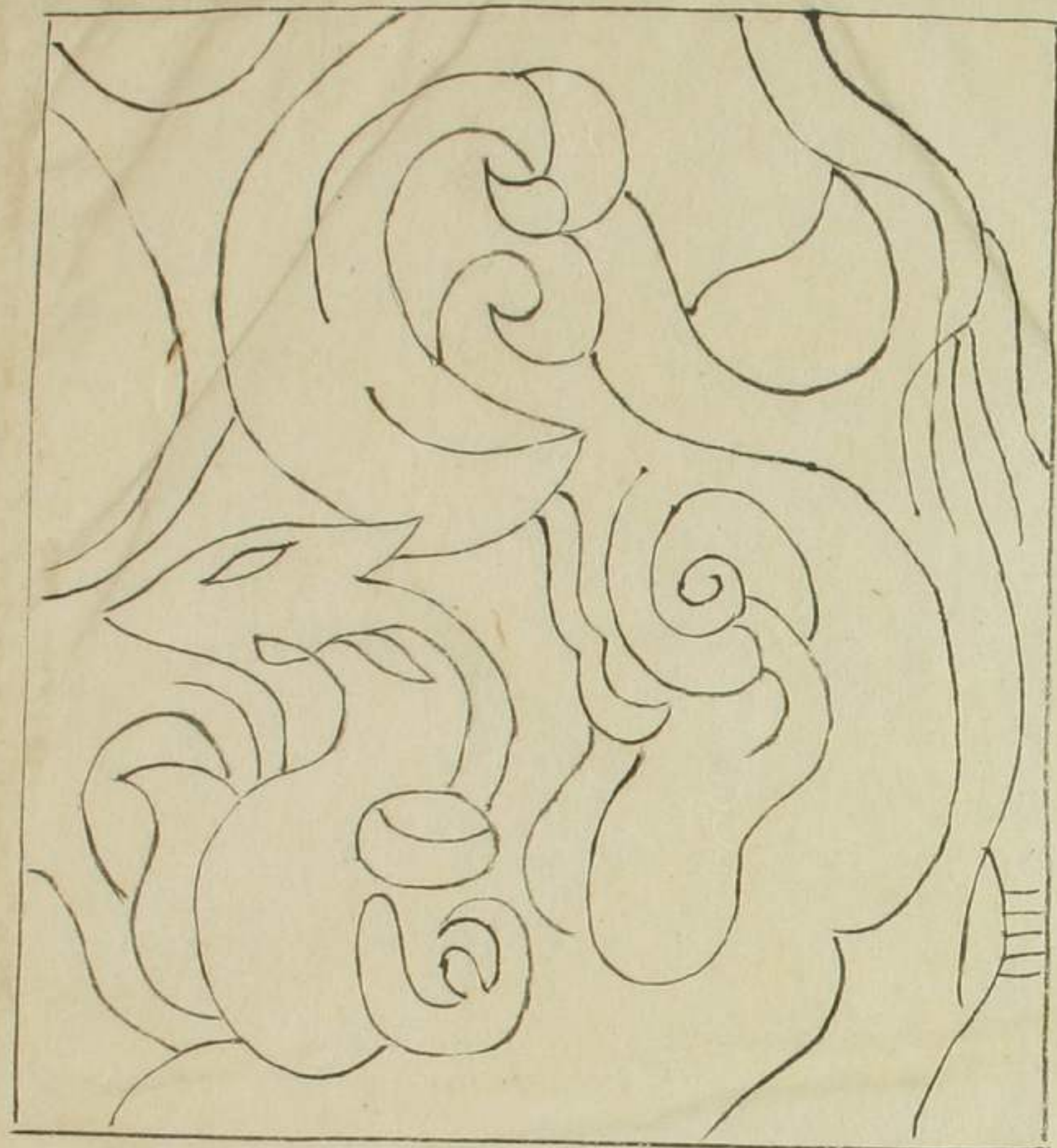


印章雜考

多
1985





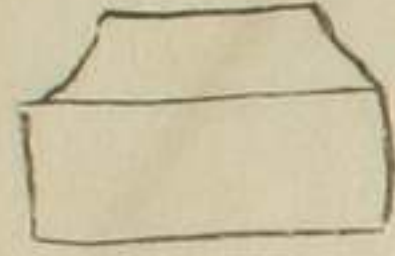


印鈕

秦璽螭鈕



獸鈕



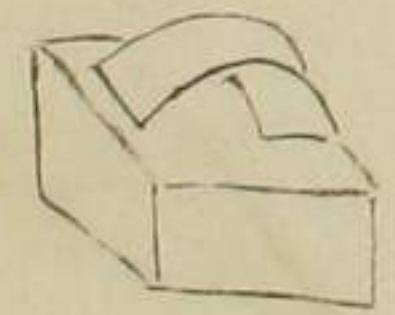
覆斗鈕



連環鈕



亭鈕



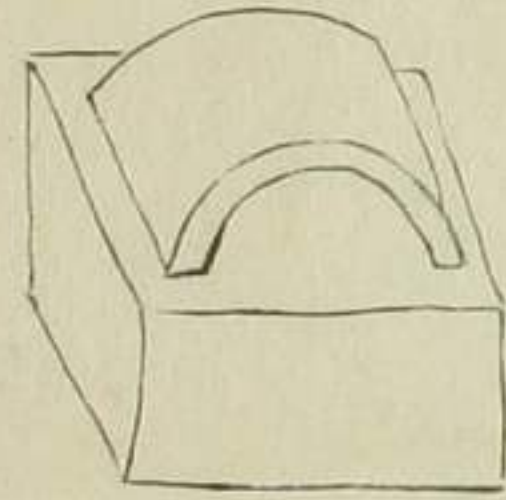
鼻鈕



獸鈕



兔鈕



瓦鈕



魚鈕



錢鈕



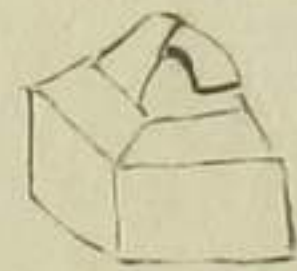
駝鈕



鳥鈕



檀鈕



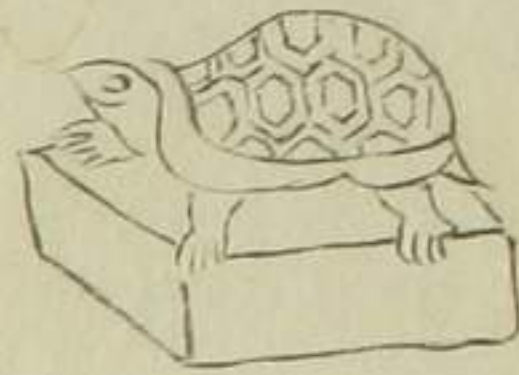
壇鈕



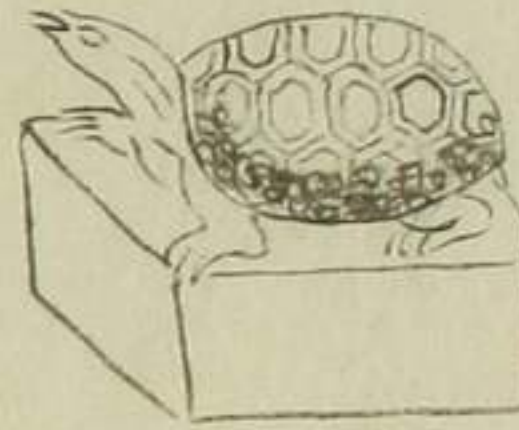
虎鈕



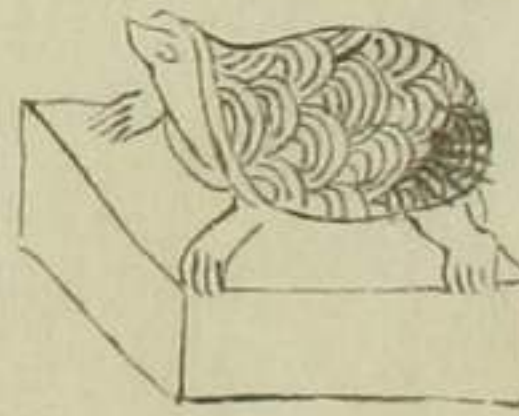
螭鈕



龜鈕



龜鈕



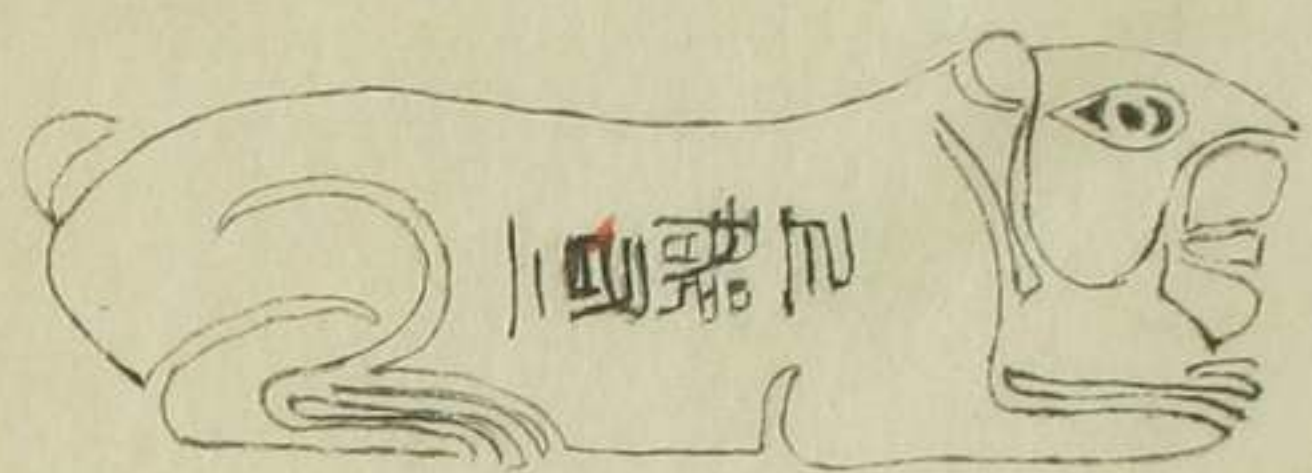
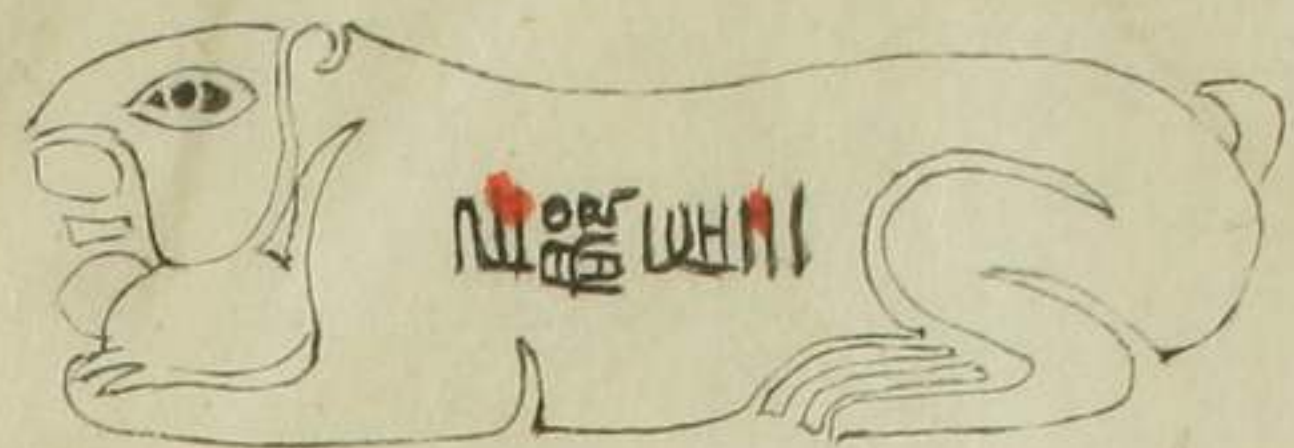
龜鈕



辟邪鈕

銅虎符一

大小依元樣



銅虎符重五兩五錢長二寸四分高八分闊八分割而為二二片相合內左有三笋隆起右有三孔凹以受笋商銀三行凡十八字按漢文帝初與郡守為銅虎符國家當發兵遣使者至郡合符合乃受之有不合者刻奏吁信嚴矣師古曰與郡守為符者各分一半右留京師左以與之漢景帝中元二年更郡守為太守上郡即今之陝西延安府始置千秦西漢因之東漢郡邑俱廢此符為西漢物無疑

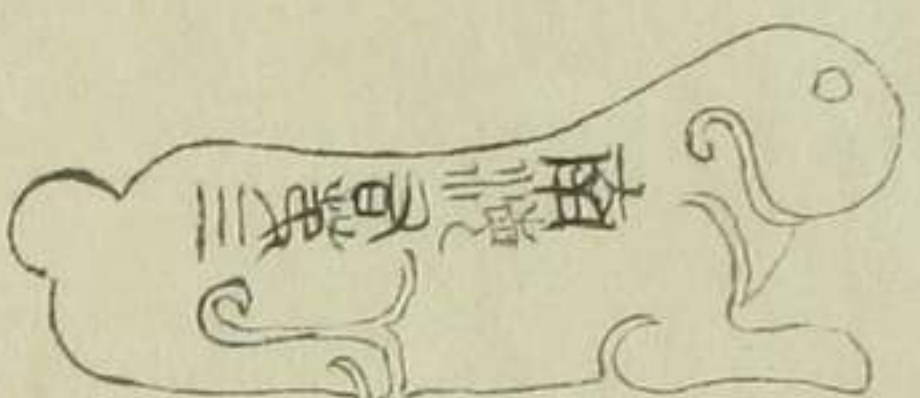
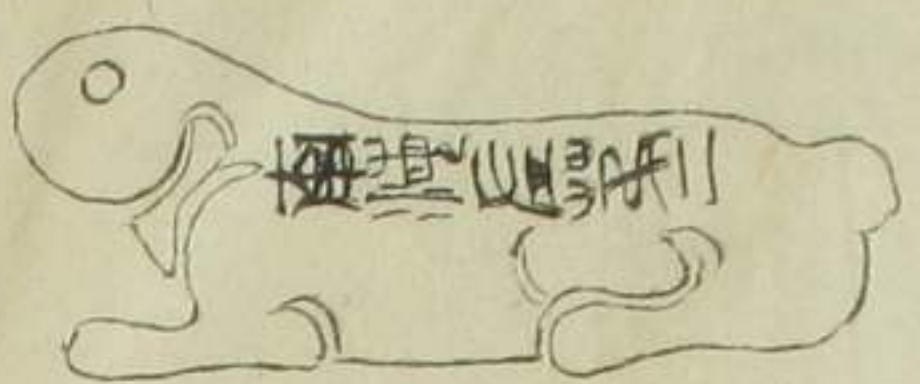


虎符陰



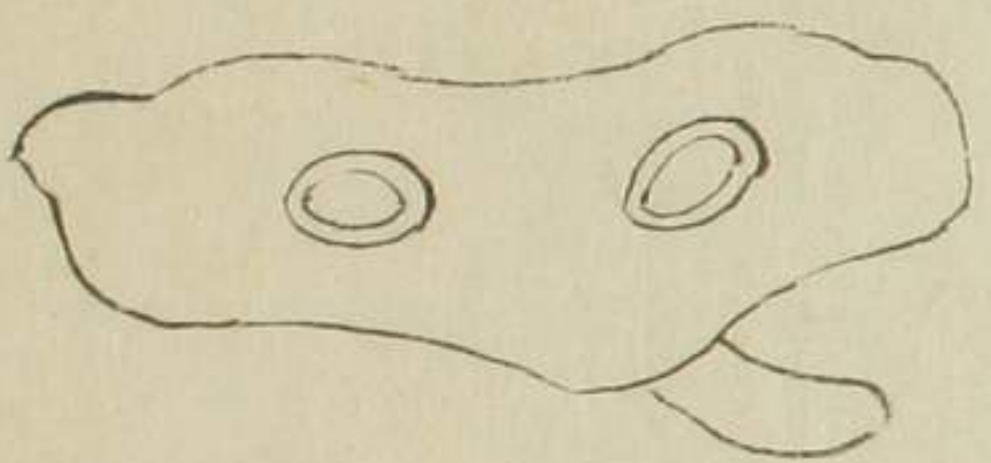
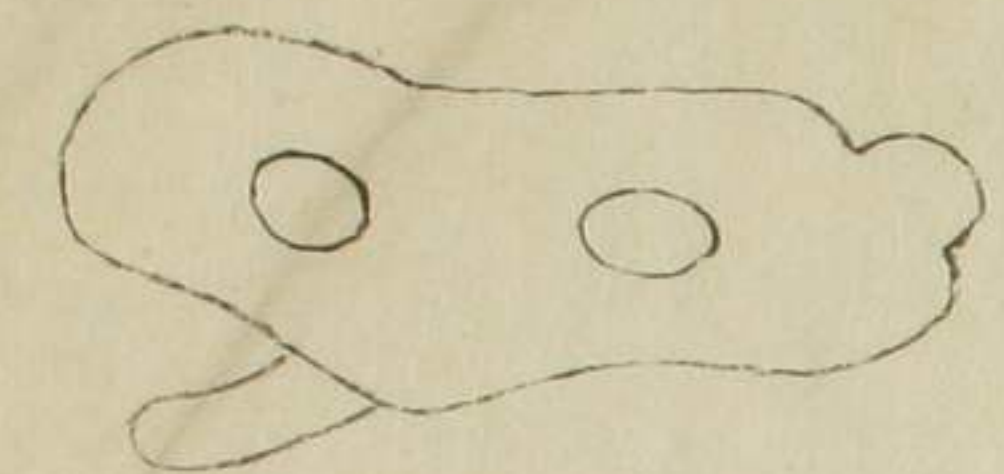
銅虎符二

大小依元樣



形制如上而差小質亦稍輕不復贅註今藏友入王百穀家

武備左
武備右
白字



書漢印紙後

右漢印本州希珍也鈕形三圖我友平士敬所勒夫
漢印秘于公府人無得見士敬為御史故燕寢展玩
侍而印之以貽我矣世之好事摹刻以傳者多至其
真者非外人所能冀望也文政甲申夏信州一圭上
人歸自長崎問余州廬余以其明於夏音強而留之
大有益於吾黨因以是印紙報之上人問印之說余
乃起而指志賀島曰彼屹乎海中如夏人畫意者此
乃印所出也島著於國史所祭神志於祀典今屬那
珂縣在天明四年二月二十三日戊申島民墾田發



大石獲之大石之下三石柱之蓋護印也其地曰加
捺濱加捺邦言猶金蓋曰印名之也印純金製之方
七分有分之大半厚三分紐作蛇形高四分盤屈反
顧頭正向後尾則左旋指上腹下橫通小孔篆曰漢
委奴國王其重二兩有九錢後漢光武紀曰中元二
年春正月辛未東夷倭奴國王遣使奉獻其倭傳曰
中元二年倭奴國奉貢朝賀倭國之極南界也光武
賜以印綬案中元二年當

垂仁天皇八十六年極南界似指 皇都大和國漢
官儀曰諸侯黃金橐駝鈕列侯黃金龜鈕今稱國王

則用黃金其所也前漢嚴助傳曰陛下以方寸之印
丈二之組鎮撫方外方寸當今曲尺七分有分之大
半則光武時印大可徵矣論者曰漢主所授伊覩縣
主也余則不信伊都國魏志以為北地則與極南界
正相反不通一也魏之時大倭王遣使奉獻書曰假
金印紫綬況在盛漢豈以方寸之印賜之一縣主乎
不通二也在日本紀 仲哀天皇八年伊蘇始名縣
此漢末建安四年而其訛為伊覩又其後也則不通
三也於是鑿說繁興達人不取焉已然則 天皇有
使命乎曰在日本紀 崇神天皇之發四道將軍西

道不及筑紫 景行天皇始涉海而西至 神功皇
后而後西海卒之據是則 垂仁時九國二島之民
蒙戎然可知矣姦雄之志熊襲在 景行時伊覲在
仲哀時則當 垂仁此地有何其雄割據焉不可
知已後漢書曰倭百餘國自武帝滅朝鮮使譯通於
漢者三十許國按朝鮮滅當 用化天皇五十年則
邦人之越海者既已悠久矣據是則如伊都之彦道
君者竊通以自僭大倭王必有之 天皇之無使命
在國史明之矣然則委奴何謂乎曰今無稽也前漢
書始年敘邦曰倭人是謬解山海經者也經所謂弁

倭北倭屬燕者蝦夷也阻海而居故分如淳釋倭字
曰如墨委面此說最古而与武內省稱之言合矣後
漢始有倭奴之稱要之毋論山海經雖前漢書倭固
當不從人徵之此印後漢亦未從人范書之成在宋
代則其作倭奴非古也倭古無知音委倭相通耳乃
知 垂仁時西國之豪強如漢以淫名將事而光武
不悟以為大倭王之使授以此印也若必以志賀島
與伊都縣近謂之伊覲縣主之印非慶日本紀不通
矣今縱廢國史必以委奴國為伊覲縣書曰極布界
則其僭大倭王也必矣昔先人作金印辨不肖謹稽

諸說而決乎此我金印之說也上人曰說頗曼請遂
書之今日唯乃記

北筑昭陽龜井呈識



印籍考 抄錄

古今印選	四卷	鹿城方用元字
篆手古印選	四卷	三月上楊當時漢卿
郎氏古圖書	一卷	明仁和郎 璞仁齋 著述
古今公私印記	一卷	
摹本宣和印史	二卷	
甘氏集古印正	一卷 十卷	
顧氏印教	二卷 四卷	
宋宣和印譜	四卷	
心品		

集古印範

一套四卷

雲間清室杰源常編輯

秦漢印統

二套十六卷

嘉郡羅王帝延年編
羅王帝延年与印數之王帝延年
不同

趙凡夫印譜

一套八卷

慶平趙宦充凡夫

趙然樓印賞

一套八卷

雲間陳鍊在專

漢晉印章圖譜

二卷

字古海所奉

宋臨川王公之明伯至輯
元吳孟思沈潤卿補
吳氏印譜者也正誤印九十七
載三

絕妙品

蘇氏印略

四卷

大彰蘇宜甫氏篆

承清館印譜

一套四卷

古吳張 鬪身令 輯

篆鐵列名

東樓閣製

李長蘅

惺文休

沈千秋

楊漢卿

葉德榮

錢通之

蘇爾氏

周郎生

王桂林

程彥明

何長卿

惺道玄

張休孺

陳居一

許高陽

王脩之

文三楷

梁千秋

沈從先

趙蹇卿

吳考叔

陳古凡

王善卿

豐南島

董青芝

徐上甫

王酉室

王少微

吳丘愚

王玄陽

字山布印譜

二套

古吳張

鬪身令

何通印史
樸園印冊
古今印則

一套六冊

古美何 通不韋

河南周亮工元亮

梁溪程遠虎明摹選

能品

主雪高印譜

二卷

長洲程大年受屋 摹

錢師高印譜

二卷

西洲王延望仍玉 篆

鄭弘佑印譜

新安鄭基相弘佑 篆

趙大燠印譜

天水趙大燠文叔

嘯雪堂印譜

二卷
三卷
二卷
三卷
古錄

廣用華世 篆

何雪漁印譜

何震長卿

吳旭如印譜

一卷

飛鴻本印譜

三卷
四卷
四卷
三卷

古歛王啟淑秀峰

集古印存

四卷
三卷

日上 監持

二程印譜

梁溪鄭遠春明

王鄭印譜

長洲鄭大年受屋

千文印譜

一卷

西洲王廷望仍玉

羅氏印冊

蕭田鄭節兩仲皇
溫陵李 贊卓吾
羅公權

秋詞我鐵

一套

潤漳州釋宗乘佛宣

日 續景

二卷

羅公權

閩中彙萃

一卷

松湖沈秉鈞炳垂

奇品

响也集古錄

二卷

王

珠璣及玉一字子并

石鼓字印譜

古蒲余 藻采之 篆

醉花軒印品

霍章陳希一舞都君

閑字編

四卷

莆田黃應淵起

精巧品

曉射吳印

四卷

古欵 吳迴亦步

醉爰居印賞

三卷

王睿章 傅林氏 鐵筆

崇雅堂印賞

二卷

華定楊汝濬允卿

文雅堂印譜

三卷

清澤周 廷佑元切父

秋水園印譜

一卷

雲洞 陳 鍊在專

印薰閣中好

二卷

吳江王石門天祥象

連珠集

一卷

龍洲朱一元巨山

酣古集

二卷

黃 震 寶 蘇 曉 稟 白

快樂印言

楊 石 成 金 元 基 象

載籍

馬陽印志

朱脩能印書

二書通所引據未識其本

王厚之印譜

臨川王厚之印伯

一本子古篇載王厚之後有印譜一卷或曰為
是在欣賞簿中而稱古印譜者乎

趙孟頫印史

黃惺水曰王厚之印譜趙孟頫印史二卷

年或每以為恨大約稍多于子并而不及于宗

通者也更有姜克章印譜當在子印印史之前

白石集古印譜

二卷

姜夔克章

集古印譜

四卷

浦城楊適宗道

吾丘子行古印式

一作吾所古人印式即宗道集古譜而益為七
百三十一方無譜次印之紙言書形鈕之制
及玉瑪瑙銀銅之質官制曰某代某官
初則曰某姓某名字此則以墨拓于紙而已

錢舜舉印譜

款叔夏古印譜

吳氏印譜

吳孟思子行孝子所集有吳氏印譜。自漢至晉。凡法印章。一手錄成編。今盡入顧氏印叢中。更有漢唐四書款釋。

漢唐篆刻四書款釋

沈州卿印譜

潤卿。長州人。合順伯子昂舞。子行孟思所摹。及未摹者。刻譜。數不及十。未若印叢之大。偽印。十種。古。元。子行述。載之。

晁克一圖書譜

一本。古。載之。又名集古印格。晁一作晁。

明樓原製

穀直耕錄作楊克。

胡龍川印徵

何主臣印章冊

黃汝享曰。篆刻自文長。溯父子前。供印令。宋元而秦漢人。鑄法不傳。傳之自何主臣始。余每謂。尚世篆刻。有何主臣。猶文章。家有。大後。謂為。回。章中之。鄭。候可也。丁。君。寶。而。集。之。又。作。何。氏。切。臣。矣。二。種。馮。山。閣。留。古。集。中。之。五。載。之。

鄭履祥印林

皮應愿印說

二種。載於史。藝。文。志。

鈿閣女子圖章

王安節王冠章印譜

姜次生印章

三行肉標園有書傳

共載雲初新志卷三十五印人傳云

松溪閣印史

感齋集載松溪閣印史歌為郭允伯作云

攷古印章一曰古

載清茹銘王會新編王厚之著云

石

印石種類不一要其可用者凍為上

印以下皆

青曰次之昌化及閩中壽山又次之楚之荊州漢之武定

等類不足數矣世用石不一時美觀便刻者

荒欲保美古人必以金銀銅玉之為妙也印典

案青田山在青田縣西浙江府

昌化在杭州府昌化縣

閩中今福建地

武定雲南有武定府古之滇國地

印綬隨葬

夢溪筆談分人地中得古印章多是軍中官古之佩

章印既免遺失皆上印後得以印後葬者極稀土
中所得多是沒於行陣者 印典
文獻通考宋元豐六年詔臣僚所授印亡毀並賜
隨葬 印典重直

鑄印法

栢菴雜志鑄印法有二一曰翻沙一曰模蠟翻沙以
木為印覆於沙中作範如鑄錢法模蠟以黃蠟
和松香作印刻文製鈕塗以焦泥俟乾再加生泥火
煨令煇盡泥熟銅鎔傾入之則文字鈕形俱清朗粘
如 印典 今日之鑄印法亦同

急就章

賈子說林軍中急於封拜故印于馬上鑄鑿成文所
為漢人急就章也

櫛芳錄古印中有急就章者急於用而疾速成之也
故其文疎者自疎密者自密絕不作急最為自然
傳於馬上鑿之則不可考矣 印典

臣印

甘旭云漢印用臣某者不獨用於君前其同類交接亦
用之臣者男子之賤稱謂自謙耳

表字印

吾子行云、表字印、只用二字為式、近人欲并加姓氏於其上、曰某氏某之、非也、若作某之父、古雖有此稱、他人美已、尤不可入印、印具

書柬印

甘旭云、秦漢名印之外、絕無他製、後晉朝及六代間、書簡奏疏上、用某人啟事、言事、白事、白殘、言疏等印者、極當、通人於書柬上、用某人頓首、再拜、敬啟、謹封、復封者、俱時俗所尚、決不可從、大約書柬中、及封固處、止用一名印足矣。

引首印

梅菴雜誌、古來印章、官爵而外、止有各印、即表字亦不多見、宋後取閑雅字作印、印於書幅之首、為之引首印、極為杜撰、可笑、今人遵守而不敢有違、何歎。

碾印

甘旭云、玉及水晶瑪瑙等印、堅不易刻、故多碾者、工人雖巧、鮮知篆法、不能令有意趣、且轉折結構、未能流暢、不足以供賞鑑。

摹印篆

吾子行云、摹印法、漢有摹印篆、只是方心篆法、与隸相通、後人不識古印、妄加盤屈、且以為法、大可笑也、多

見故家收藏漢印，字皆方正，近乎隸書，此即篆印篆也。凡屈曲盤回，唐印始如此。今碑刻有款，魯公官誥尚書省印，可攷。

廿旭云：篆印篆家，漢八書之一，以平方正直為主，多減少增，不失六義，近隸而不用隸之筆法，絕去肉搖，妙入神品。漢印之妙，人皆本乎此。

王兆雲云：印率文字，非篆非隸，亦非不篆，非不隸，別為一種，謂之篆印篆。其法平方正直，繁密則損，少則增，其隸相通，然一筆之損益，皆有法度，後世不知，以行、氏說文篆、拘、膠柱而鼓瑟，至好自用者，則又杜撰。

成文，去古益遠，故漢書以後，謂之無音章，可也。

黑印色

昔唐集賢院圖書印，用墨印，厥後博古家，彙古印為譜，有效之者，印出最易得神，且歷久而色不變，先作印譜，但宜用之云。

唐宋無自印

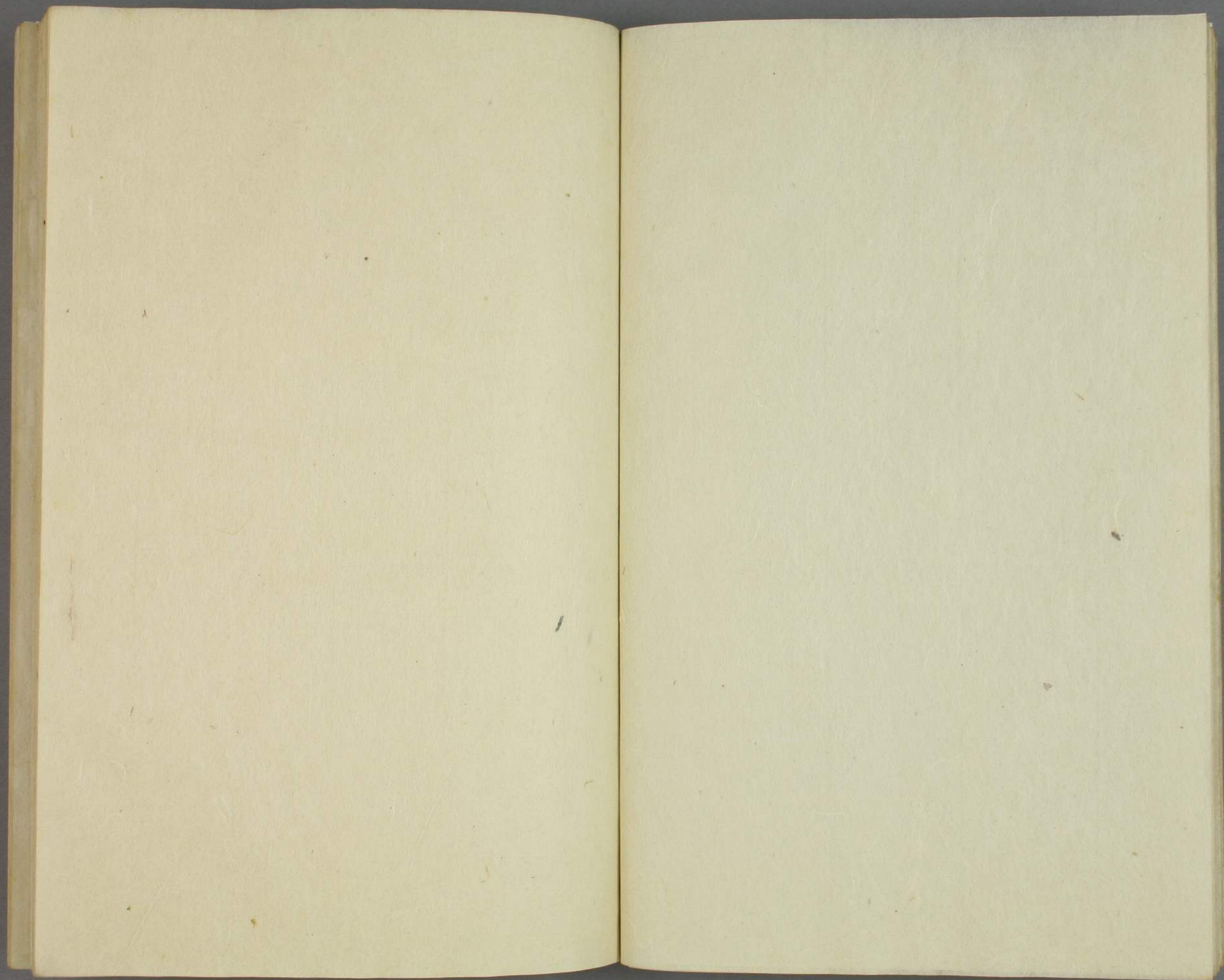
王兆雲云：印章興廢，絕類於詩，秦以前無論，蓋莫盛於漢者，漢晉之印，古拙飛動，奇正相生，六朝而降，乃始屈曲盤回，如繆篆之狀，至唐宋則古法蕩然矣。

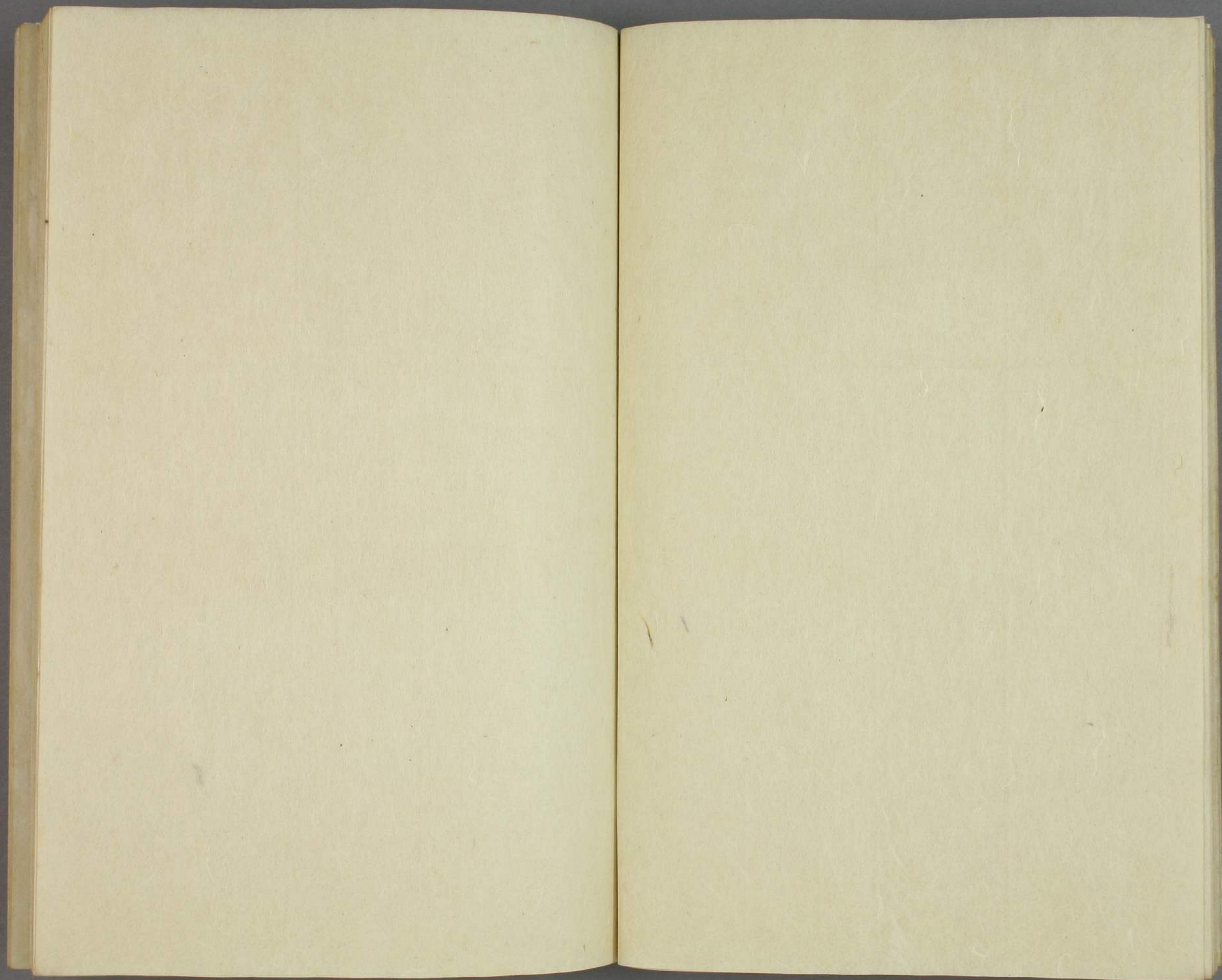
印稱枚

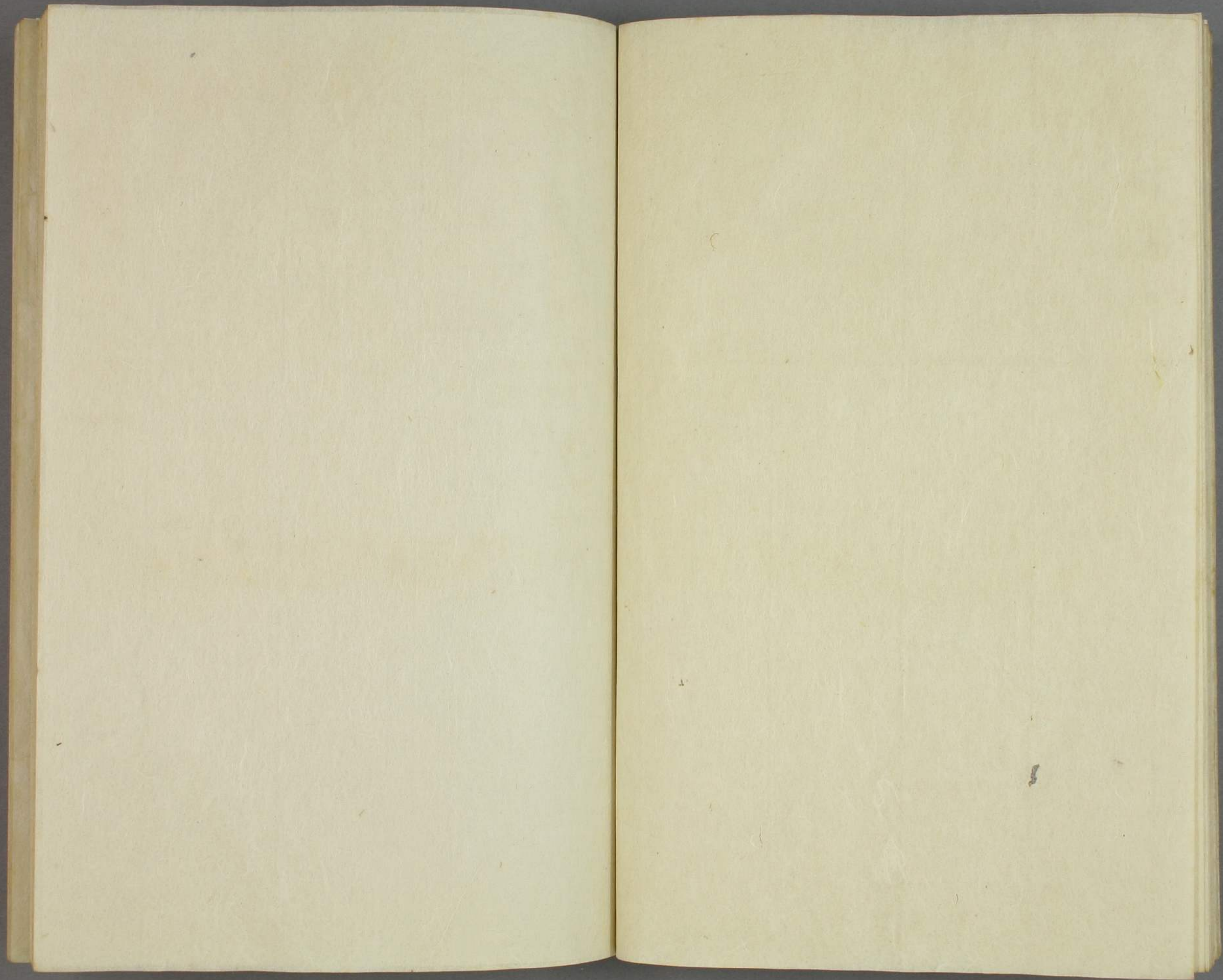
漢書明帝詔今送列侯印十九枚諸王子年十五歲已上能
趨拜者皆令帶之則是印當稱枚或稱鉞鈕或稱或方
或生俱俗謬無出

古印足臧

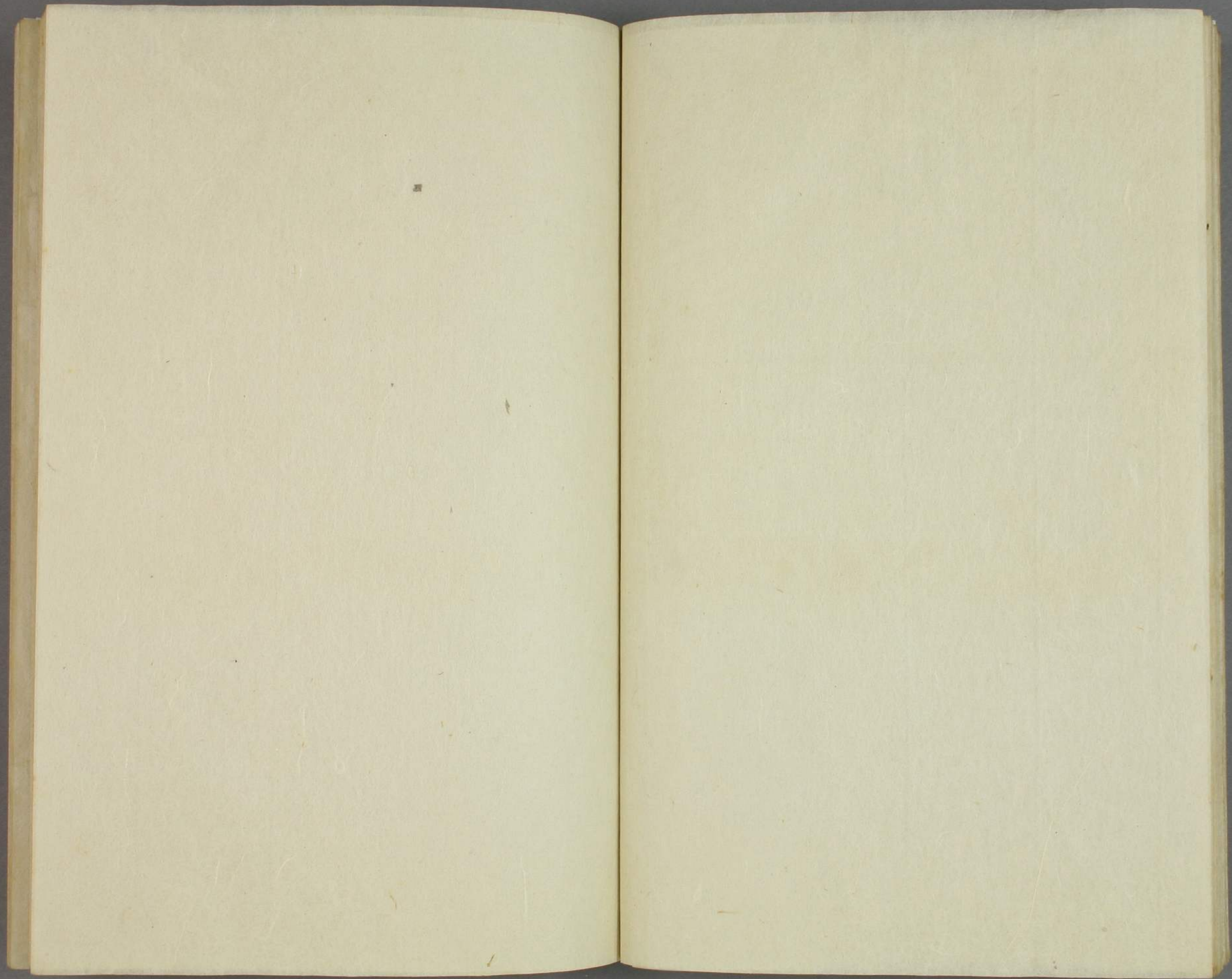
王明官云秦漢印章傳至於今不啻鐘王法帖何者法帖
猶藉之人信石非真手蹟至若印章悉從古人手出刀法
章法字法燦然俱在真是龍心虎骨也每一把玩恍然
令人有千古意





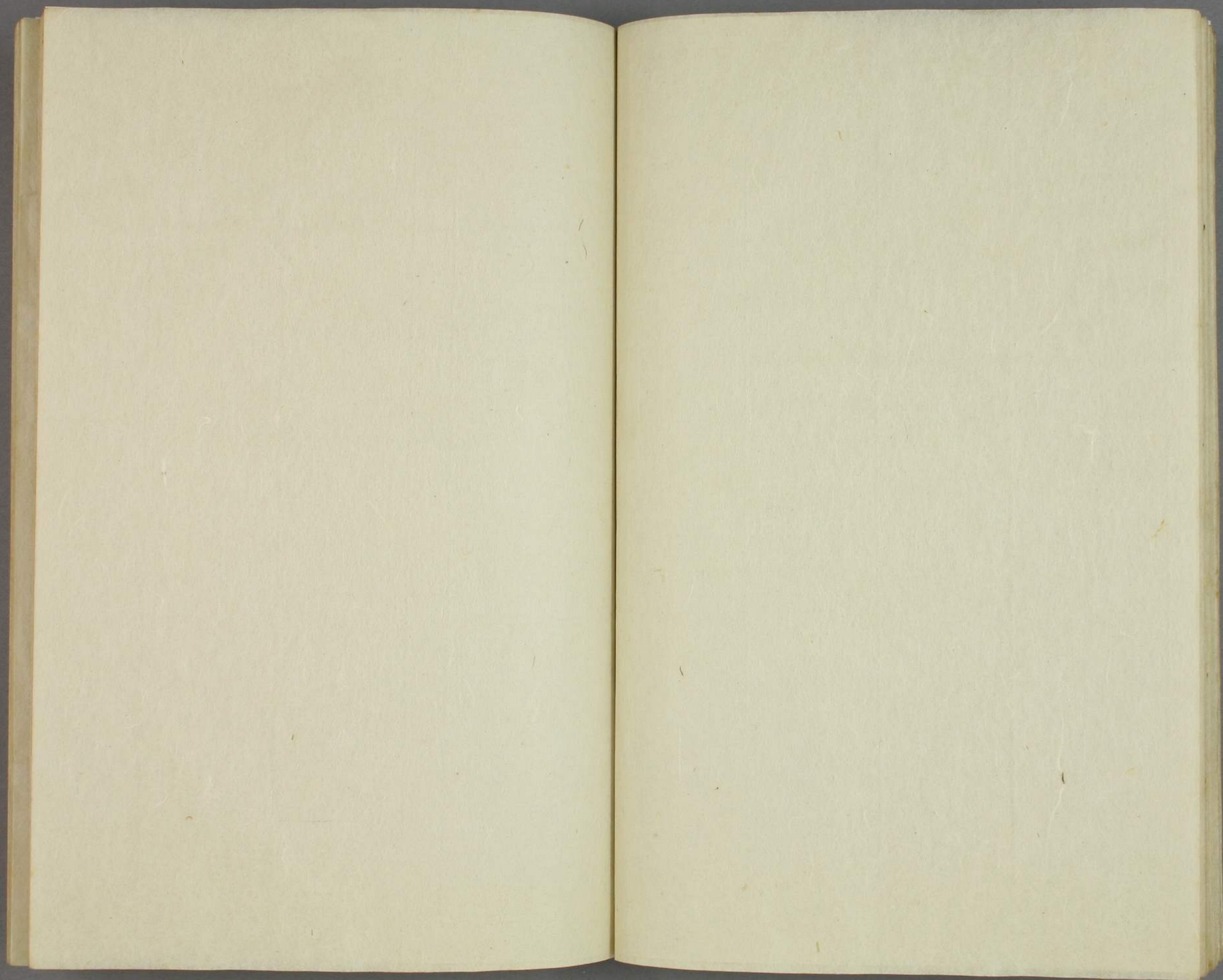


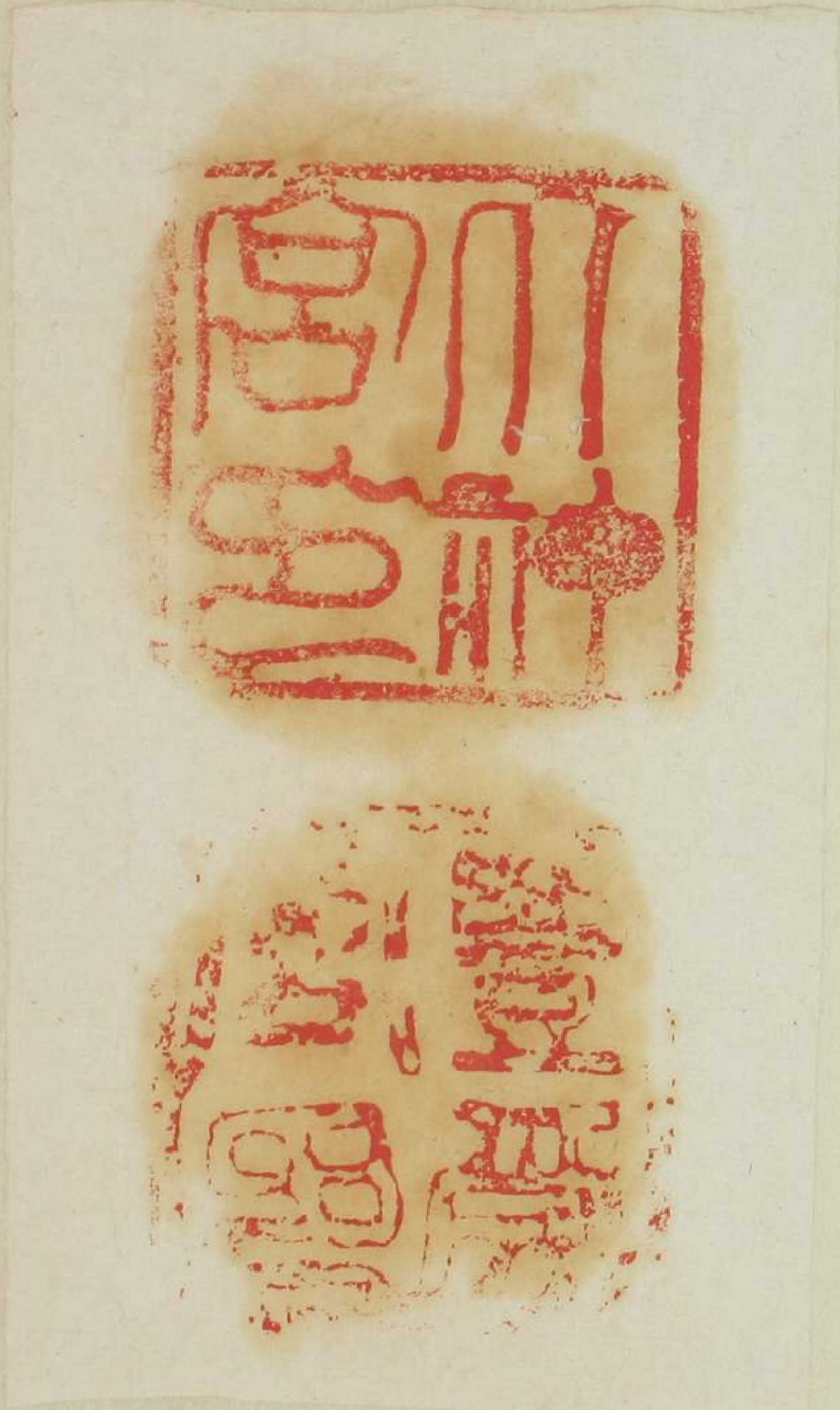
海濶無垠
二維罔極
德配天地
子孫萬世





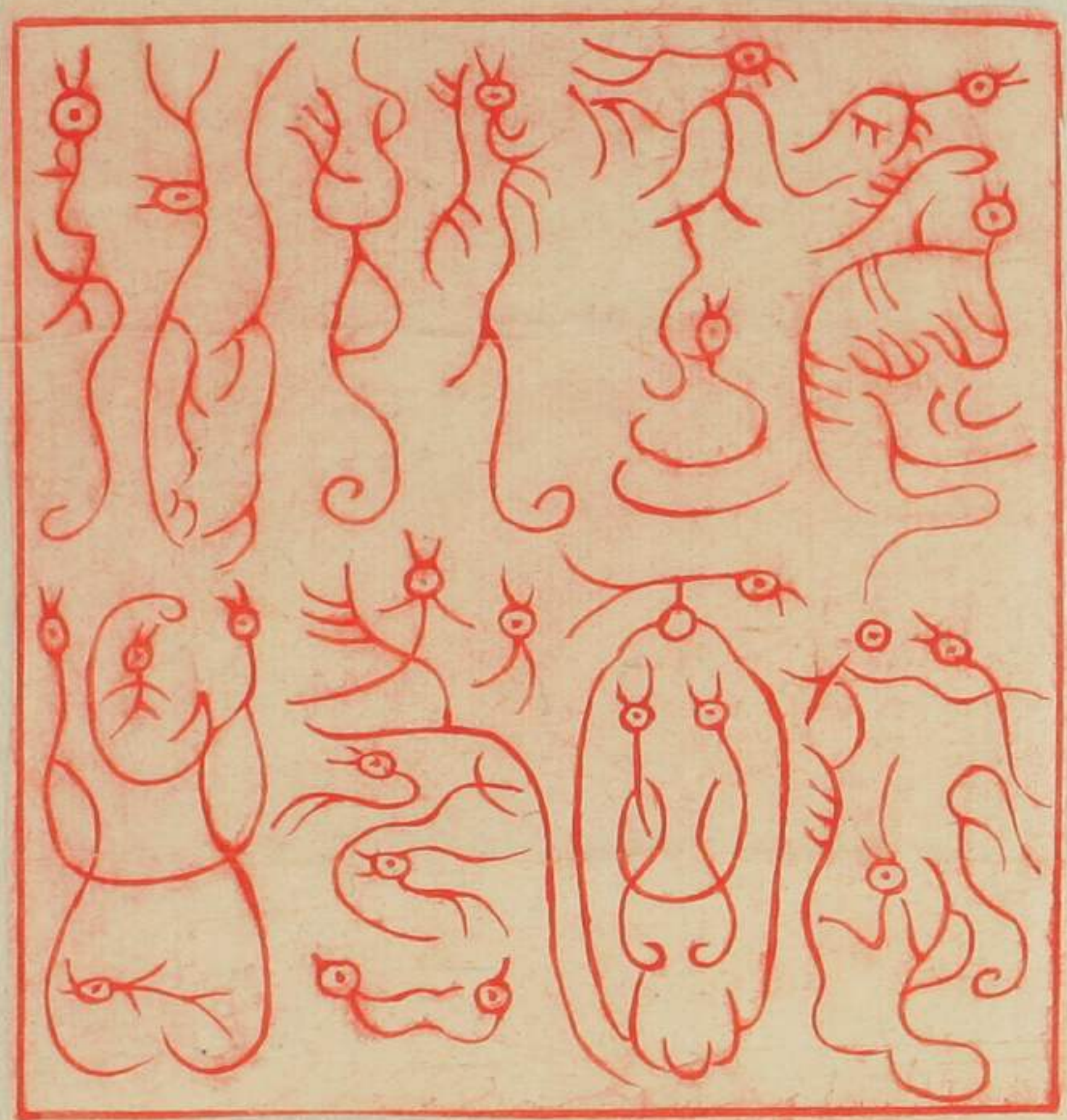






5

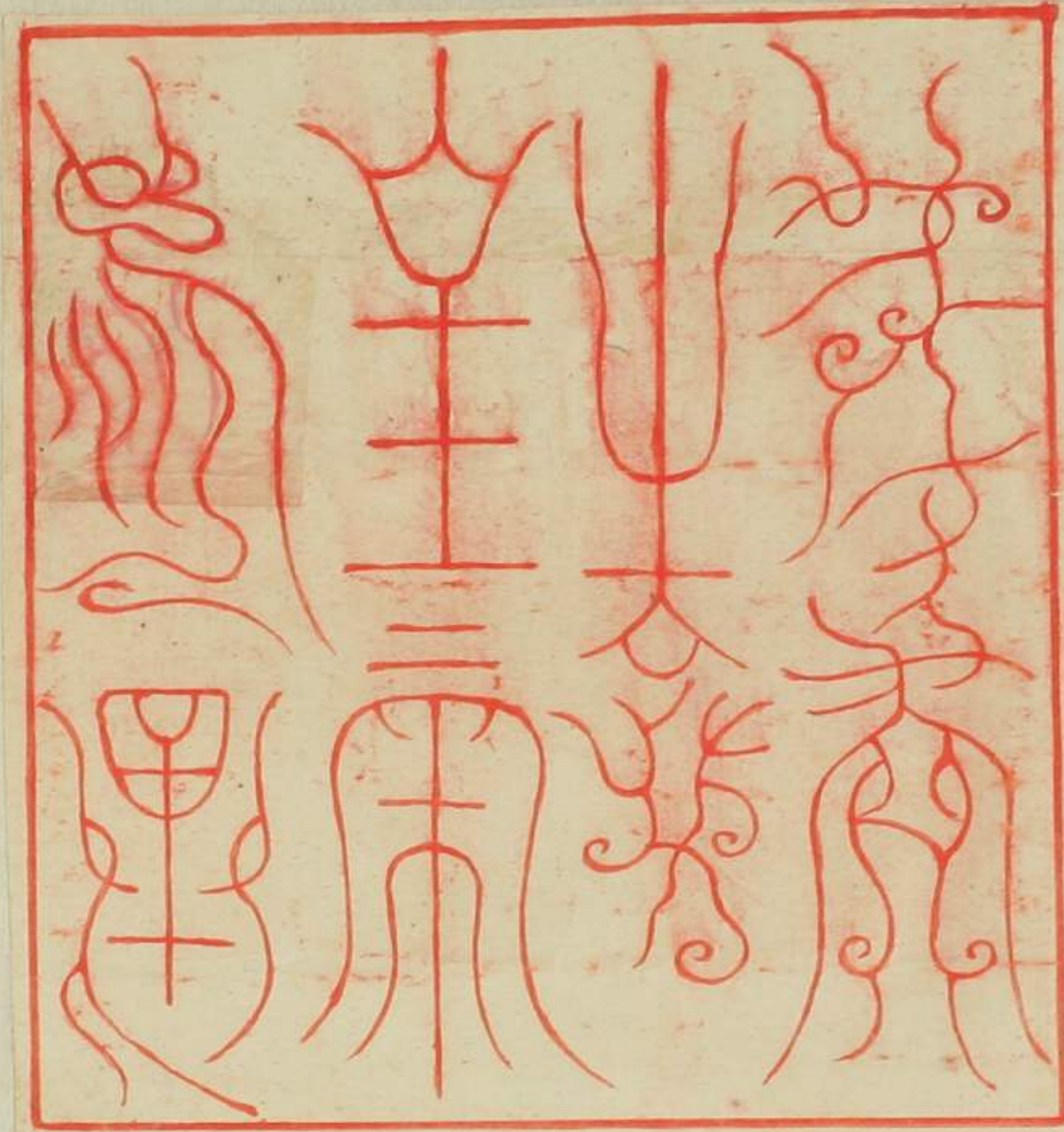
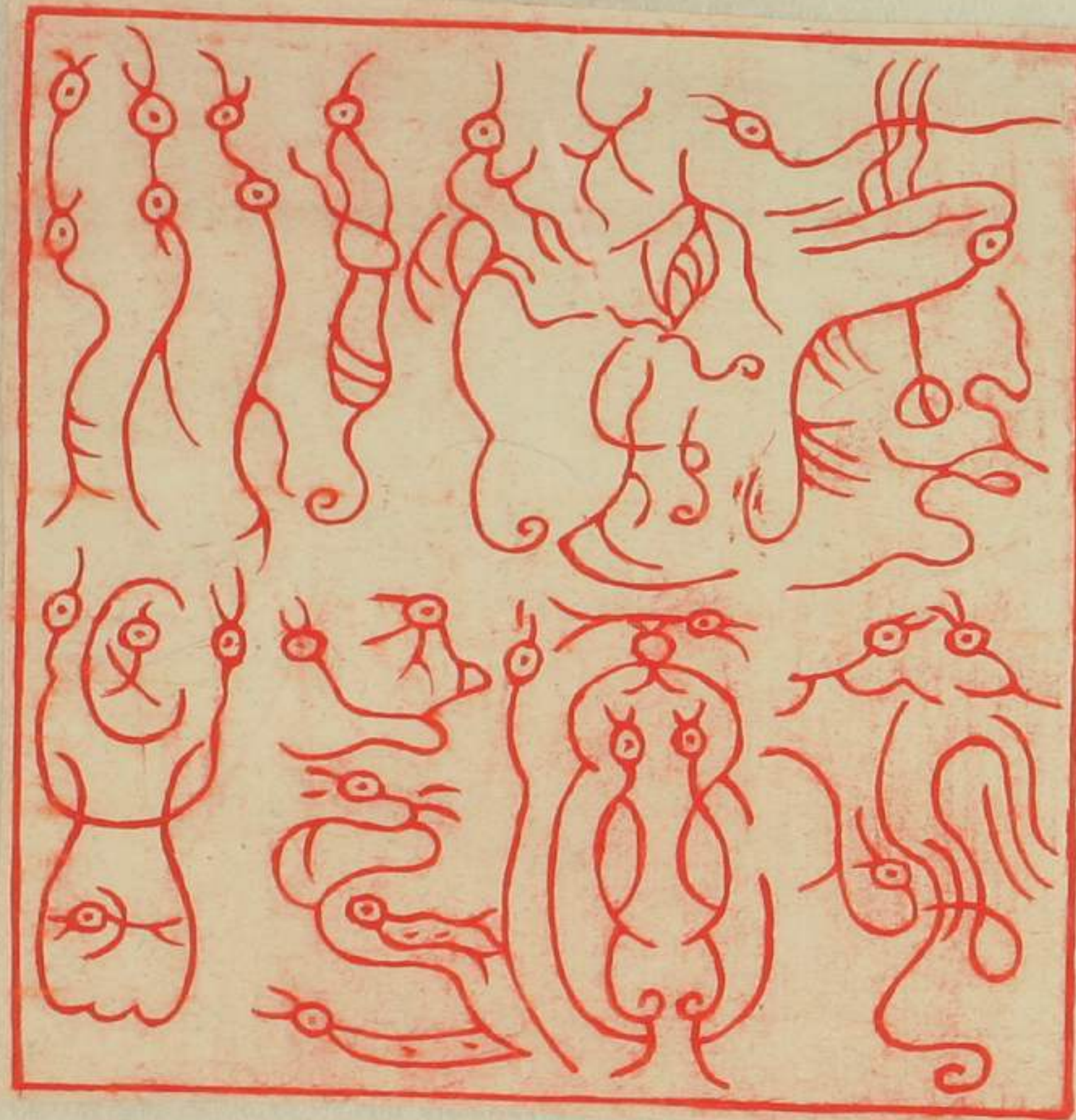




聖

圖

傳



糸印譜を本誌に載するに就て

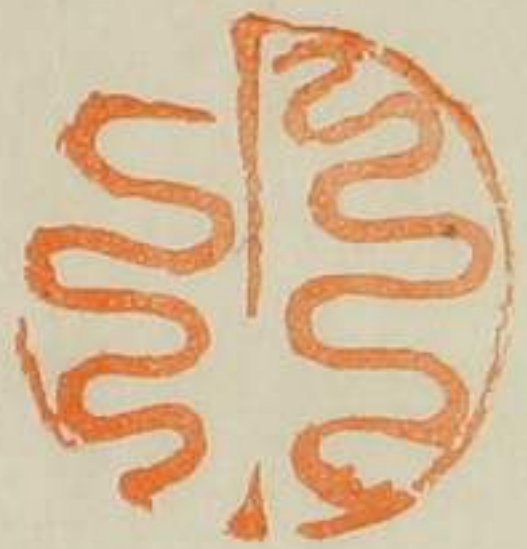
山中共古

東京の藏書家中川得樓翁書籍愛讀の餘暇糸印を愛玩され、珍奇の銅印數十顆を藏さる、翁又一奇書を藏さる、古鑄百印と題せし糸印譜なり。編者は安永年間勢州津の俳人二日坊宗雨なる者古鑄印を愛玩し、藏印百顆を選び此印譜を製し、同好者に贈りし、自筆本なり、予此書を借覽せしに、明和八年金龍道人なる者の序文あり、其文中に「上略」其字不可讀者多、或曰是蒙古篆也、豈悉然乎哉、但既不可讀、故尙之者鮮、尙之者鮮、故其價廉、其價廉、故銷以鑄他器、以需焉、故輒近銅印至罕、但好事家留其鈕精巧者、以爲書鎮而已、下略」との文あり、今を去る凡

百五十年寶曆明和の時代に於て糸印の多數は廢銅とし、他器に鑄造され存在罕となりしを知る、然れども明治初年の頃に至る迄は猶糸印の多くを坊間骨董商の店頭に見るを得たりしに、此兩三年更に之を見ること無に至れり、偶これあるも其價驚くべき高價となれり、愛玩者増加して其價を貴くせしによる乎、聞に泰西の好事家本邦の銅印を愛し古銅印を買込む者多しと、或は然らん、予中川得樓翁と好を同ふし糸印を集る多年、其數五十餘顆に達せり、又諸氏の愛藏糸印を見る凡百五六十顆、印影凡百七八十有餘を見たり、此等の印面各異りたる多からず、多數は印文同一にして、全く印面を異にするは百有餘にすぎざりし、然れどもこは予の淺見にすぎねは會員諸君に愛藏の印影を乞て本誌に載せ、同好諸君と共に幾個の印面異りたる糸印原存するやを研究せん事を望む、先には廢銅とされ今は海外に持去らる、今にして研究せずんば遂に其時無からんを憂ふ、希くは諸君愛藏の印影を本會へ送られんことを。

糸印譜 山中共古輯

獅合珠玉二段鈕



中川得樓翁藏

銅質黃唐金にして黒錆色愛すへし、廿七年一月の本誌に竹内久一君が出されし豊公の印と鈕の附かた同く二段製になれり、此印銅色製作糸印中の最古のものならん他に同一の藏印者を見ず、中川翁の藏書に安永年間勢州津の俳人二日坊の編輯されし古鑄百印と題せる印譜に是と類似小形の印影を見るのみ

鼠鈕



中川得樓翁藏
印文重字

二日坊の古鑄百印所載のもの亦鼠鈕なり、阪地生田百濟氏も所藏と聞けり

象鈕



中川得樓翁藏

糸印々文讀難を以て神佛鬼仙の文字とし神聖視するものあり、此印も同印面にして奇談あり、下野宇都宮在成高寺住職に至りて能筆の者ありしが、或夜天狗來りて和尚の手を借り度由申されしが、夫より右手にて書する能はず、後天狗來りて和尚に手を返し其謝禮として銅印を與へしが、僧の手其時より舊の如く書を能くする事を得たりと云へり、此天狗の授けしと稱する印影を門戸に貼すれば、火災を免るゝと受くるもの多かりしと云ふ故、根岸武香翁成高寺を尋内此印を問はれしに、今は何れに所在を失せしとて存せざりしと武香翁は其後同一の獅鈕なるを得られたり、中井敬所翁亦一顆を藏せらる予も亦獅鈕のものを藏せり

材銅厚肉

糸 印 譜 山 中 共 古 輯 二 其

獅 玩 球 鈕



人 物 鈕



材 銅 厚 肉

中川得樓翁藏
白川樂翁公の集古十種古印の部にこれと同一の印影を圖し天明四年於下總國大寺村農民桑田十兵衛所得于石室印文不可讀疑舶來書鎮之土中者歟と記されし印と同一糸印なり阪地水野桂雄氏其他諸氏の藏に間一のものあり獅子鈕多く人物鈕稀にあり

中川得樓翁藏
糸印中白字のもの至て稀なり此印銅色傳世古鏡の如く黒中青色ありて愛すへきものは是と同一の印故根岸武香翁の藏にもあり其他所藏者を知らず

獅 鈕



獅 玩 球 鈕



中川得樓翁藏
此印鈕種々あり三村清三郎氏藏のは双龍頭鈕なり骨董協會雜誌表紙模様に出しは人物鈕なり獅鈕にも亦異なるあり

中川得樓翁藏
此印糸印中最多數を見るものにて鈕も亦種々あり余が藏するものには犬鈕獅鈕大黒天鈕あり又人物鈕龍頭鈕を見る文字大きと細きとあり印面下部の字畫一飛雁様のもの一波形をなすもの一單に一曲線をなすもの等あり

糸 印 譜 山 中 共 古 輯 三 其

獅 鈕



獅 鈕



中川得樓翁藏
糸印の大多數は字畫不整難讀ものなるに此印文のみ明かに文行思信の四字を讀み得らる此印細字太字及小形のものあり鈕亦種々あり獅子あり犬あり余の藏には人物鈕あり二日坊の古鑄百印には狐紐さあり狐鈕の印未見果して狐ならば糸印鈕の中の珍希なる物といふべし

中川得樓翁藏
中川翁これと同印にて人物乗馬鈕をも藏せらる古鑄百印には獅鈕とせり又靜岡加藤秋峯氏藏のは二人連手の鈕なり

龍 頭 鈕



犬 鈕



中川得樓翁藏
古鑄百印所載のものは狗鈕さあり宮原水雲翁愛藏のは人物塞に腰掛て足を片側に垂れたる印鈕なり余の藏品は福祿壽鈕なり

中川得樓翁藏
故山中信天翁の藏に古銅印蓋と題せし刻本あり中井敬所翁騰寫されしを中川氏又再寫せられしが此書平安安瀨子深氏鑒藏甲斐高孟彪編皮氏校定とある古銅印譜なり書中此印文を譯して星とせり此印眞備人鈕多し阪地水野桂雄氏獅鈕のを藏せり

糸 譜 山 中 共 古 輯
其 四



獅 鈕

中川得樓翁藏
二日坊の古譜百印これと同一の印面にて異人對座鈕さいへるを載す余古印譜中に同一のもの二印を見る他に所蔵者を知らず



獅 鈕

中川得樓翁藏
共古藏印中にもあり印文類似して此印文の省字か
と見ゆるもの骨董協會雜
論表紙模様にあり



獅 鈕

中川得樓翁藏
古譜百印中に人物鈕を載す蜀山人と親交ありし青山堂平々山人所用の印に同一のものあり余初て此印を視しに銅色何さなく若く殊に印面駒曳の畫様和吳を帯び純然たる糸印には有間敷と思ひしが其後古色愛玩に足るものを見たり鈕に獅子人物及三鶴併立等あり故根岸武香氏は此印糸印末期のものと言ひ居られし



獅 鈕

中川得樓翁藏
古譜百印これと同一のものを載す他に所蔵者あるを知らず

糸 譜 山 中 共 古 輯
其 五



獅 鈕

中川得樓翁藏
糸印中に一種此印面に類似せるもの大小數種あり天正十三年十一月廿一日本能寺文書所用豐太閣の朱印及本譜糸印譜第一に出せし獅含珠二段鈕の印面其他二日坊印譜中にもあり此等一派をなすものなり本譜所載のもの同一の印面所有者を知らず希なるものと見ゆ



獅 鈕

中川得樓翁藏
印面文字なるか畫なるか不明にして他にこれと同印を所有する人を知らず故人増田寛厚氏の集めし糸印影中に少しく小形にて大同小異の印影あり印面中の楕圓形
⊕如此くなり居れり



獅 鈕

中川得樓翁藏
此印多數存するものにあらす印面同一なれど鈕の獅子前足の片々を上げたると二足とも地につけたるとあり何れも得樓翁所有さる二日坊印譜及余の藏印中にもあり印文榮字の變形ならんか



龜 鈕

中川得樓翁藏
印面珍奇なられど龜鈕のもの他に見たることなし初翁よりは聊疑を得たりとの報を受し時は聊疑を存せしが其後印を實見せしに古色銅質疑ふべきものにあらず漢代の藏印には龜鈕印あれど糸印には見たることなかりしに此鈕出たり珍奇のものといふへし鈕形漢印鈕の龜の如く甲高からぬ龜なり予も獅鈕のを藏せり

糸 印 譜 中山 共 古 輯

其 六

人物抱魚鈕



中川得樓翁藏
此印面にて獅子鈕は多くあれど此鈕は頭巾を冠りたる人物魚を抱へ居る形なり思ふに姪子の像なるべし予の藏に大黒天鈕と異獸鈕とあり阪地水野桂雄氏に人物鈕あり林若樹氏に猿猴鈕あり又本誌三十六年五月發行卷二に肥後佐々豐水氏此印面と同一の物を出され菊池能運朝臣墳墓修膳の時出土せしものなる事を記載せられたり能運朝臣の死は永正元年ふれば今よりは四百餘年の昔なり糸印渡來も此頃なれば當時埋められしものならん歟又一種印文同一にして重輪ならざるものあり

童子讀書鈕

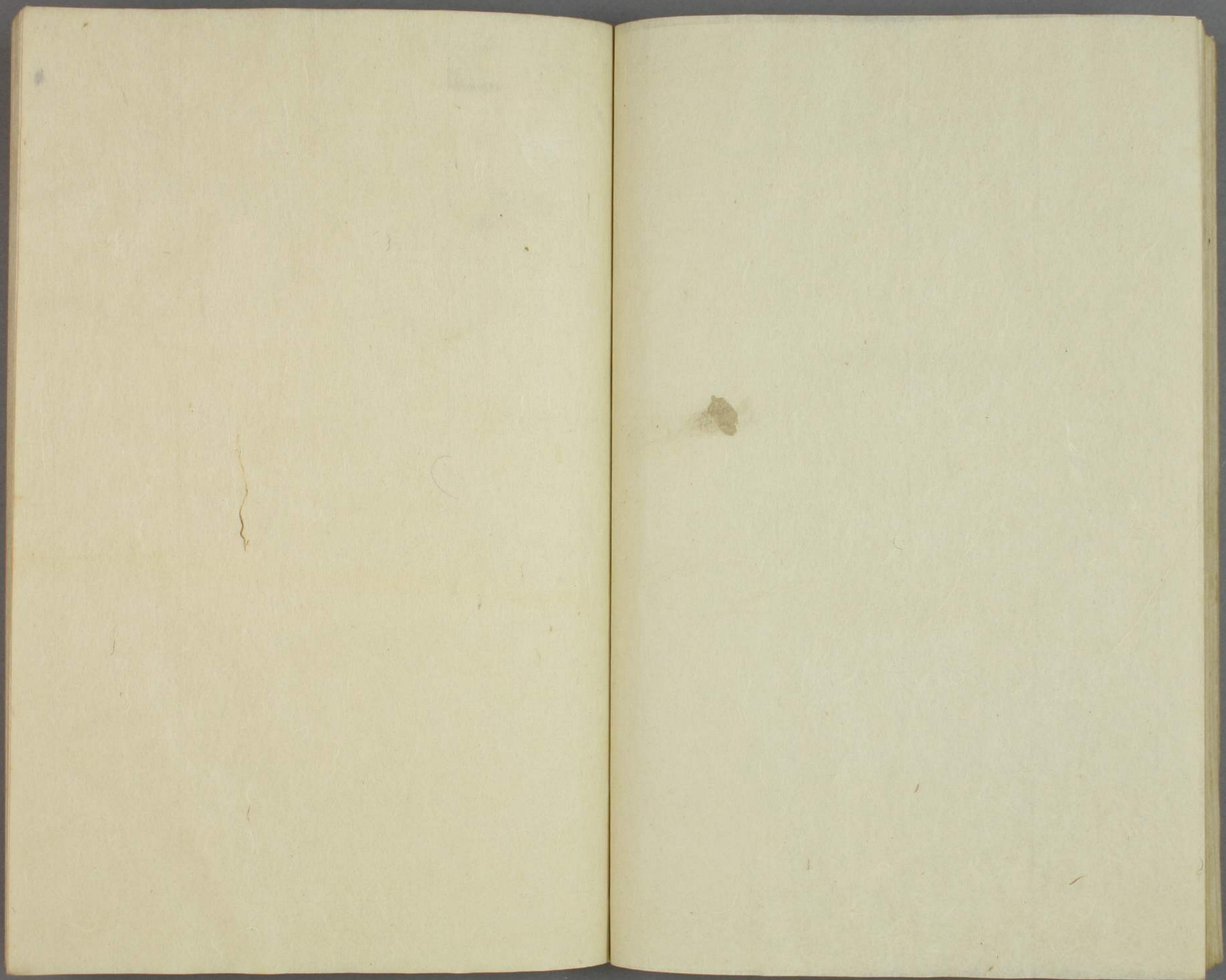


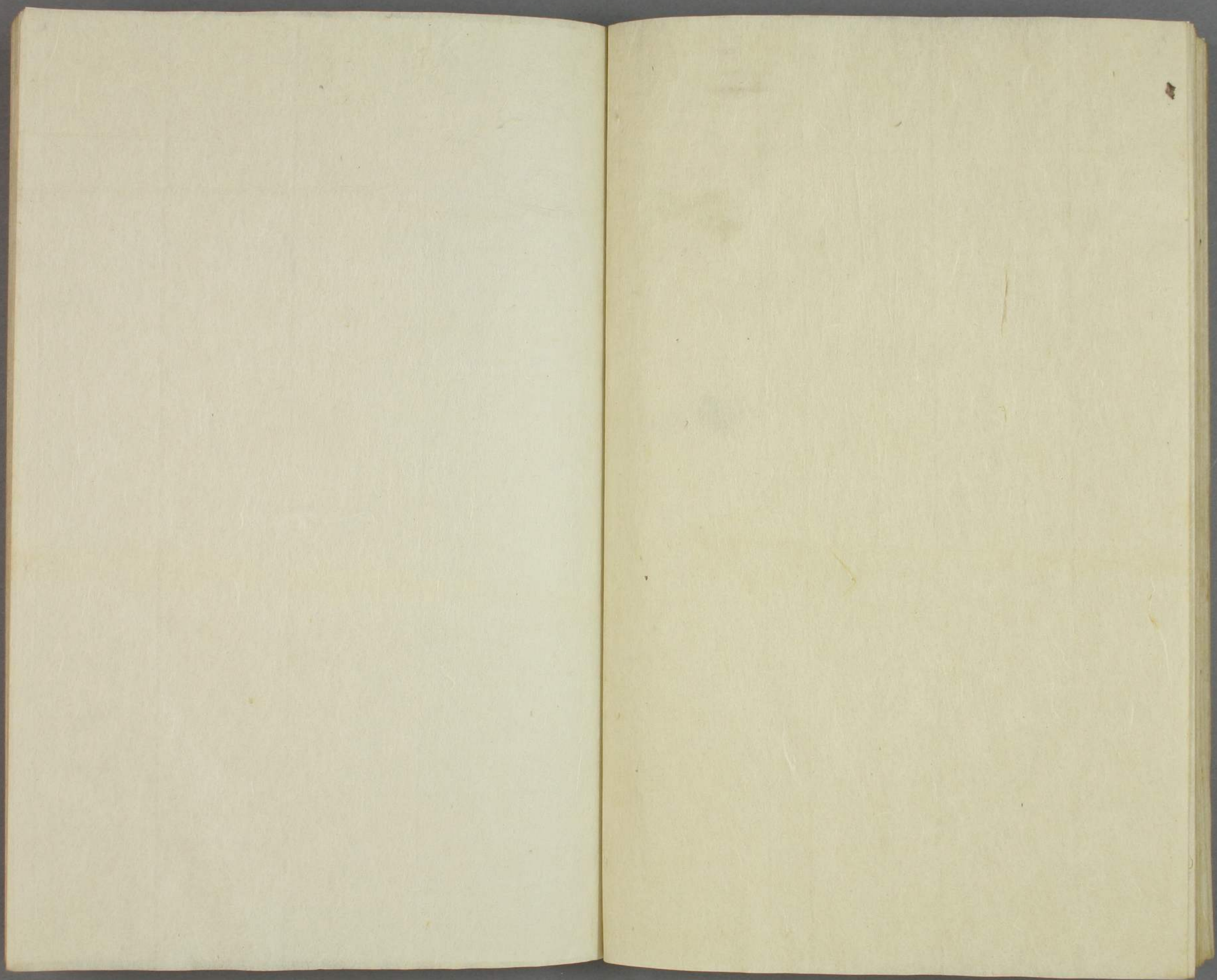
獅鈕

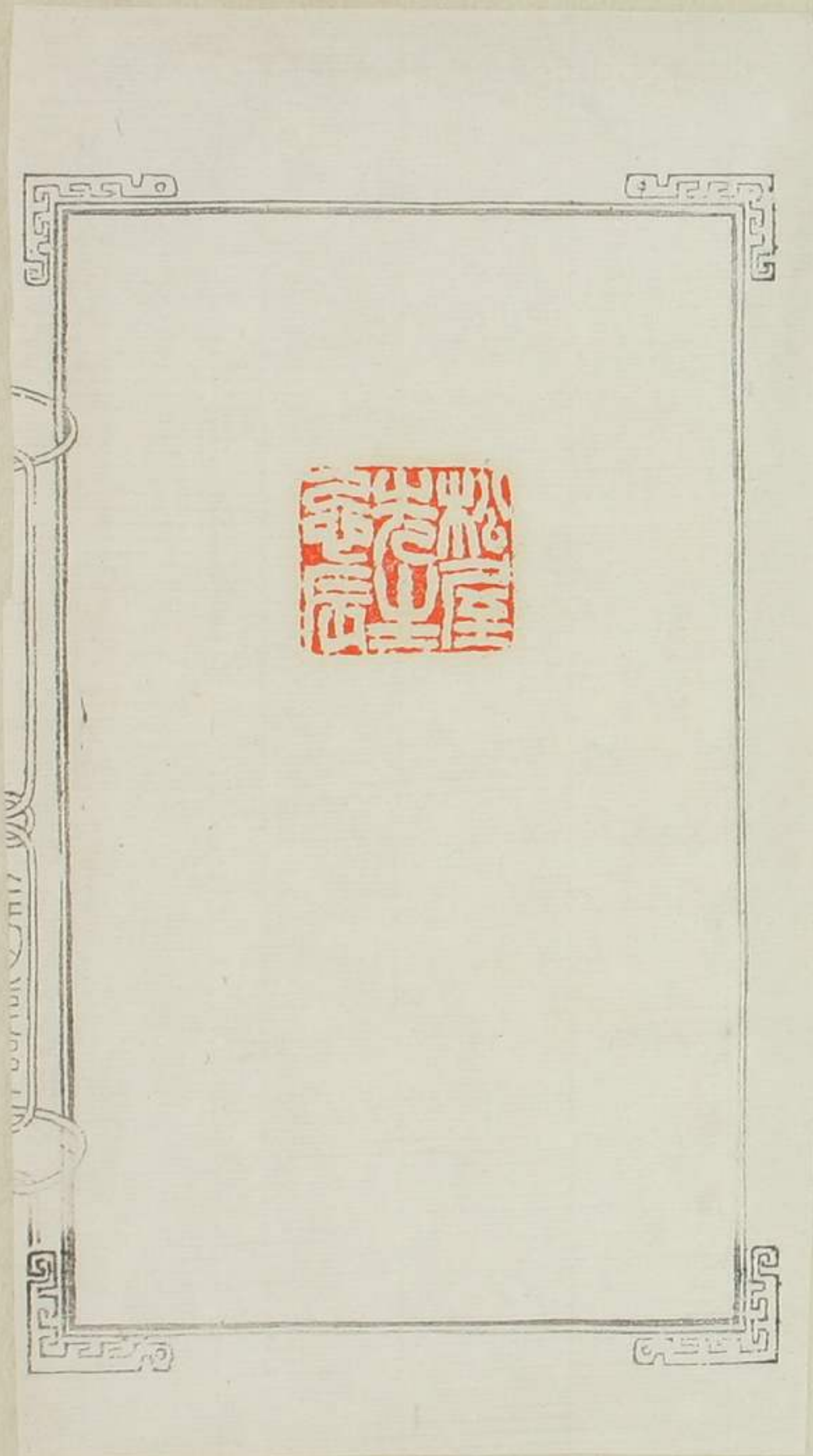


中川得樓翁藏
糸印中希に畫文を印面になすものあり人物馬仙人乘鶴及此印の如き人物畫あり其機奇に畫にして文字をなすかと思はる印鈕種々あり獅鈕水野桂雄氏三猿棒珠鈕小山源治氏大黒天鈕石谷崎明氏異獸鈕三村清三郎氏二日坊印譜には猿弄珠鈕とあるは小山氏のご同鈕ならんか此他印鈕替りたるもの多からん

中川得樓翁藏
此印面と同一にして小形なるものあり水野桂雄氏藏にあり獅鈕なり印文發字と讀まる銅色黄白のもの多し何れも獅鈕なり他鈕を見ず



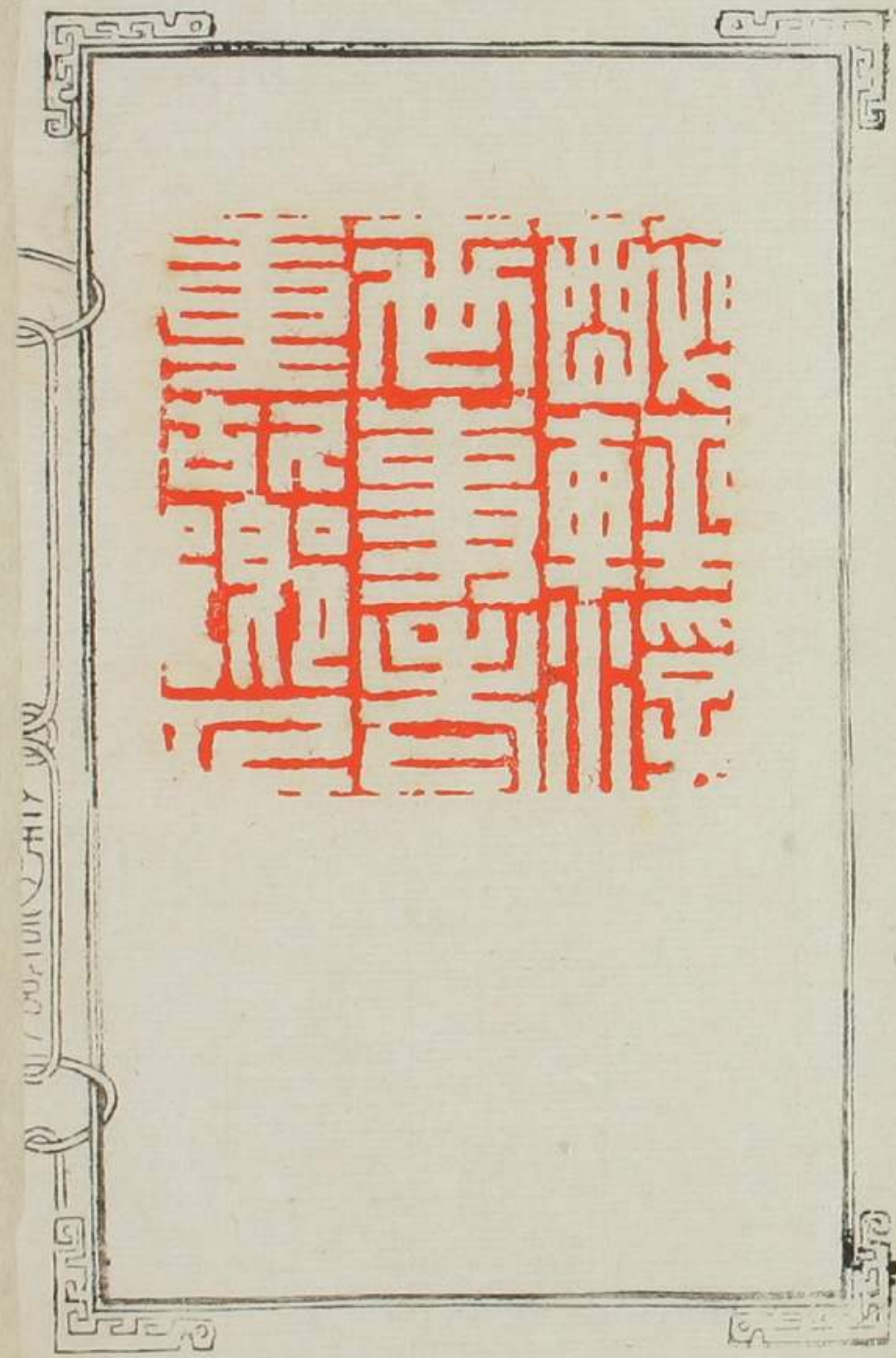


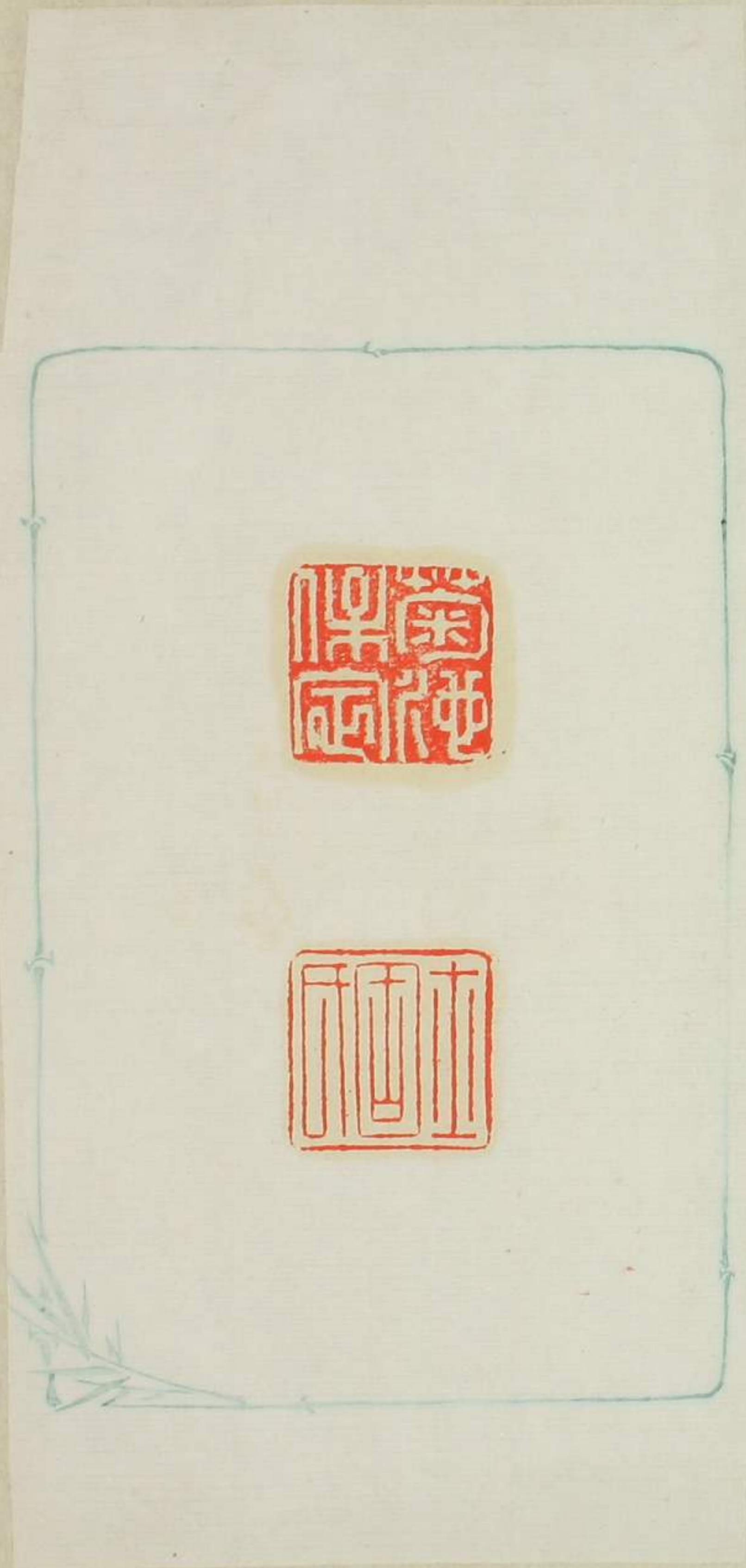






Red seal impression in seal script characters, likely reading '沈氏' (Shen family name).









摸水月齋可識
 一三章 崇壬午九月
 月不復也
 于石山人
 海于石



款曰余一夕共
 與名池霞樵
 酌品山評水
 典動弄欽
 筆
 美蓉方山人





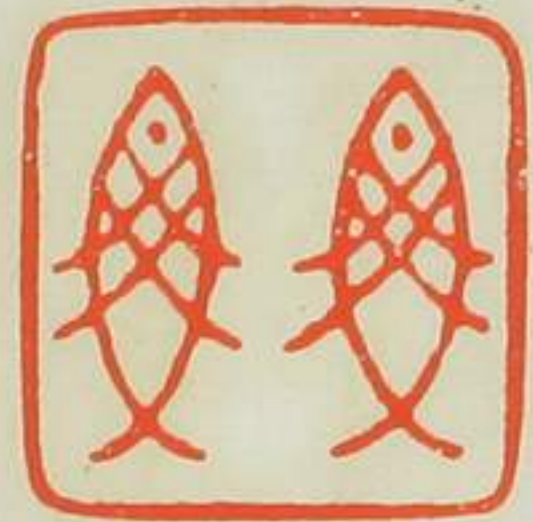
絨

仿
檀
丹
文

半
額
墨
模



雙魚



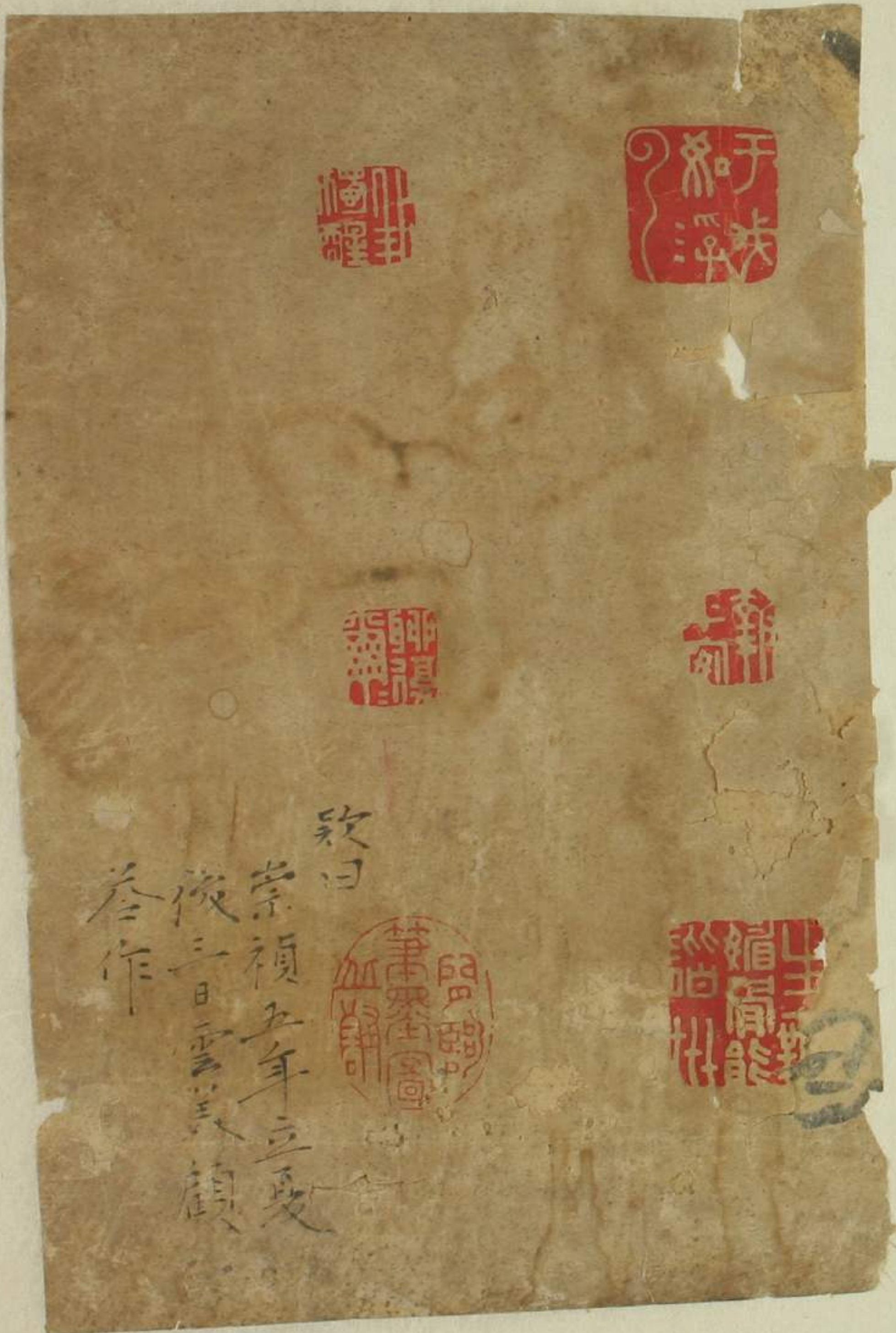
古文

鑄製

丁未初冬製於
華山寺

華山日潤





致曰



崇禎五年夏
後三日雲美顧
卷作



廣三莊畫譜

吉田安平錦行



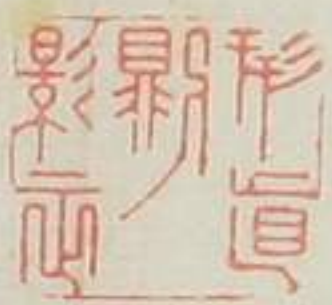
牙印

乙亥年
雪村有為



廣三莊畫譜

白樂天



倣學山堂

東家

唐景芳



古田豐字空中 獅子鈕



丁丑夏五雨中

金岡山樵篆

一笑人間今古 水章昌



東楚風流元帥



白石孝

丁丑夏五

放舟家漁家

吉田安平

水牛印



丁丑夏五 鑄于桐生亥次

金田敬



上毛凡流鼓舞



原奉
自然
一
故

丁丑年五月

雲山山人景

丁卯初秋
雲山先生教正之



雲山

神田明神

洞

東園

神田明神
洞

女正もあはれ

吉田

雪



杜鴈

山







